

発 行 第125号

平成30年 9月28日(金) いわき市総合教育センター いわき市平字堂根町 1-4 0246(22)3705

教師力upの素の活用~国語~



教育支援室~SSWの活用~

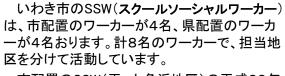
平成30年度の全国学力・学習状況調査の結果が 公表され、各学校でも分析や課題の洗い出しが行わ れている最中かと思われます。国語においては小中 に共通して、「主語と述語のつながりを意識して読む・ 書く」「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして 書く」「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉え る」などを苦手とする傾向が見られました。新学習指 導要領においても、情報の扱い方に関する指導の改 善・充実が求められており、知識及び技能の一つとし て明示されました。

このような課題に対し、授業改善のヒントとして、当 センターの調査研究委員会がまとめ、ホームページ上 で公開している「教師力upの素」を是非ご活用ください。 例えば、中2の「根拠を明確にして意見文を書こう」 の授業では、書いた文章をグループで読み合う際、

- ①何のために読み合うかの目的を明示する
- ②分かりやすい文章構成を例示する
- ③生徒たちがそれぞれの文章を①②の観点に沿って 書けているかを読み合い、適切な助言をし合う 様子が、紹介されています。

ほんのひとふりでうまみが加わる「〇の素」は、世界 中の台所で重宝されています。毎日の授業をよりよく したいと考えている先生方にとって、「教師力upの素」 が授業にうまみを加え、

子どもたちの目がさらに 輝くきっかけになることを 願っています。



市配置のSSW(平·小名浜地区)の平成29年 度の活用状況を相談が多かった順に見てみると 次のとおりです。

- ①家庭環境の問題
- ②心身の健康問題
- ③不登校の問題

その他、虐待や貧困の問題にも対応しました。

SSWは、社会福祉制度の知識をもち、家庭の 問題などの解決に向けて、関係機関と連携して 支援します。支援を要する児童生徒の背景から 情報提供や支援方法を探り、対応していきます。

学校だけで解決することの難しい家庭の問題 (貧困・虐待・面前DV※)やいじめ、不登校、暴力 行為などの生徒指導上の問題など、心配なこと がありましたら、教育支援室へご連絡ください。

SSWが積極的に学校訪問をして、何でも相談 できる関係作りに力を入れていきたいと考えてお りますので、どうぞよろしくお願いします。

※ 面前DVとは、「児童が同居する家庭における配偶者に対する暴力」 で、児童虐待防止法に定められた心理的虐待とされている。家庭内のDV によって、家庭は安心できなくなるうえ、子どもの適切な養育が家族の重 要事項でなくなり、子どもに関心が向かない、かまってもらえないという状 況が生まれる。

学級づくり

2学期がスタートして1ヶ月余り過ぎましたが、先生方の学級は「理想の学級」に近づいていますか。夏休みが明けて体 も心も一回り成長した子どもたちへの指導に、難しさを感じている先生はいらっしゃらないでしょうか。今回は 「思春期の 指導」をテーマに書かれた図書を紹介します。ぜひご自身の学級づくりを振り返ってみてください。

- 1 性差を意識した指導の心がけ(思春期の子どもは、低学年に比べて男女差が大きいことをまず押さえます。)
- 2 子どもとの良好な関係を築くために「信・敬・慕」を意識(信頼・尊敬・思慕)

「友達先生」でなく、「この人の言うことなら聞こう」と一目置かれるような望ましい関係づくりに努めます。

- (1)信・・・言っていることとその人自身が一致している状態、言行一致で信頼が得られます。
- (2)敬・・・「すごい」と思われることで得られます。「よく分かる授業」「楽しい授業」で子どもの能力を伸ばせる先生です。
- (3)慕・・・親しみをもたれることで得られます。休み時間には、存分に遊んだりおしゃべりを楽しんだりして、関係性を 築いていくことです。

このように子どもと教師の関係を築いていくことは、思春期に限らず、どの学年の学級づくりにも基本となるのではない でしょうか。

著者はこの後「何より困ったことがあった時に、本人に打ち明けてもらえるようにしたいです。『信・敬・慕』すべてがバラ ンスよく揃った教師には未だ届かない境地ですが、いつまでも追い求めたいと願いながら、今日も私は教室で、子ども達 の前に立っています」と続けています。 (思春期の子どもとつながる学級集団づくり・赤坂真二編著・明治図書)

赤坂先生の著書は「思春期の具体的指導」「思春期指導の極意」と続きます。総合教育センター図書資料室に蔵書が ありますので、ぜひ読んでみてはいかがでしょうか。